

# 00 序

## ■本活動について

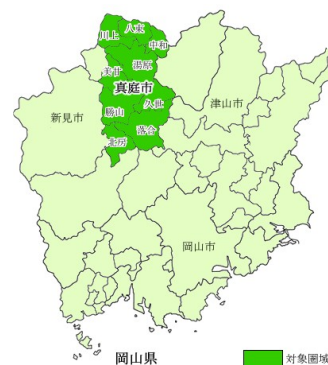
今年度よりJLAU 公園部会は、岡山県真庭市が官民協働で取り組んでいる「遊び場づくり」に関わらせていただくことになりました。当面の取り組みとして、真庭市の「こどもはぐみ応援プロジェクト」、「まにわあそびのわプロジェクト」や真庭市勝山地区「子どもの未来を応援する会」の活動の情報を提供していただきながら、プログラムに参加し、遊び場づくりがどのように展開していくのか、その取り組みと成果が地域や人にどのような変化をもたらすのかを観測していきます。そして、「子ども」「遊び」を視座とし、真庭市の公園、自然地、遊休地、校庭、境内、庭、その他外構空間、図書館、学童などを「系」としてとらえ、これらのオープンスペース、施設、環境資源がもつ価値と可能性について考えていきます。

## ■真庭市について

真庭市は岡山県北中部、中国山地のほぼ中央に位置し、市域は東西に約 30km、南北に約 50km、総面積約 828 平方キロメートル、人口約 40,000 人の自治体です。

参考・位置図出典

<https://www.city.maniwa.lg.jp/soshiki/3/1048.html>



## ■こどもはぐみ応援プロジェクト 真庭市では「みんなで

はぐむ子育てのまち」の実現に向けて、様々な取り組みを行っています。「こどもはぐみ応援プロジェクト」の施策の一つである「安心して遊べる場所の整備」に公民協働によるポケットパーク整備事業があります。今回訪ねた「新町どんぐり公園」は勝山地区「勝山に公園を作る会（現：子どもの未来を応援する会）」と自治会の皆さんの取り組みが実現したポケットパーク整備事業の第一号です。

参考 <https://kodomo.city.maniwa.okayama.jp/69353.html#project2024>

■まにわあそびのわプロジェクト 「子どもは、自分で育つ力を持っています。そして、その営みを楽しみ、今を幸せに生きる権利を持っています。真庭市教育委員会はこのことをまず大切にしたいと願っています」（広報まにわ第 224 号 p2 より抜粋）真庭市教育委員会 三ツ宗宏教育長のお言葉です。そして、真庭市教育委員会では子どもが真庭市の豊かな自然の中で遊ぶこと、子どもが安心の中で自由に遊ぶことを支える市民運動（「あそびのわ」）を広げていくための取り組みを行っています。その一つに市民の自立的活動をななめ後ろから支える「伴走支援」があり、地域ぐるみで子どもの育ちを応援するための仲間づくり、大人も一緒に楽しむ機会づくり、学びの機会づくりなどが協働で進められています。

参考「遊びと学びの場づくり応援サイト VIVA まにわ」<https://viva.maniwa.city/>

## ■活動概要

- ・日程：2025/8/4～6 の三日間
- ・JLAU 公園部会参加者：石井裕子、大垣内弘美\*、鈴木良、宮川忠之
- ・8/4：真庭市教育委員会を訪問
- ・8/5：真庭市勝山地区の「子どもの未来を応援する会」の遊び場づくりのプログラム「城山であそぼ！」に参加。プログラム終了後、同会が主体となり「ポケットパーク整備事業」により整備された「新町どんぐり公園」を視察し同会世話役の方々と情報交換を行った。
- ・8/6：真庭市教育委員会を訪問

\*公園部会メンバーの大垣内弘美さんは、真庭市の子どもの遊びや遊び場づくりに関する「伴走支援」を担当する「郷育魅力化コーディネーター」の一人でもあります。今回、真庭市の行政、市民の皆様との連絡、調整にご尽力いただき、私たちの活動及びプログラム参加が実現しました。

## ■プログラム概用

実施日時：2025/08/05（火）9：00～13：30

## ●プログラム1. 「城山で遊ぼ！」

・天候：曇り一時雨

当日の最高気温 33℃

・参加者 38 名

子ども 16 名 大人 11 名 運営者 8 名 JLAU 3 名

・内容：真庭市勝山地区にある城山に登り、頂上の広場で外遊び



## ●プログラム2. 「新町どんぐり公園」視察、真庭の皆さんと情報交換

・14：00～14：30 現地視察、14：30～15：30 情報交換



## 【位置図】



※「城山（如意山）」と南側の「勝山（太鼓山）」は戦国時代に三浦氏が築いた山城跡で、真庭市史跡に指定されています。

# 02-1 事例報告1 〈城山であそぼ！〉

## ■実施状況

集合・解散場所 真庭市中央図書館

9：00 運営側参加者集合 自己紹介、連絡事項などの確認

9：30 一般参加者集合

9：30～10：45 山登り（比高 約 150m 地理院地図を利用した計測）

10：45～12：30 山頂で外遊び、昼食、ふりかえり

12：30～13：30 片付け、下山

## 【レポート】

今回のコースの比高は 150m 程度ではあるが、未舗装の山道に入ると「山登り」の雰囲気味わうことができる（写真②）。また、山道に入ると若干涼しく樹林の冷却効果を感じた。

2 歳児から小学生の子どもたちが歩いて山頂まで到着。山登り中は虫取り、草摘み、葉っぱ拾いなどの遊びがみられた。

## ①山登り





写真③ 頂上は平らな草っぱらで、大人の目が行き届き今回のような企画には程よい広さ。旭川の流れる西側の谷から涼しい風が吹き、木陰もあり快適に過ごすことができた。

写真④ 一枚の段ボールが敷物にも落書きできる面にもなり、段ボールが何となく集まりやすい領域をつくり、サインペンや毛糸などのちょっとした小道具が遊びを生み出していた。

③頂上の広場



②山登り



④木の枝と毛糸を使った遊び



写真⑤⑥⑦ 広場ではいろいろな遊びが生まれた。手作りブランコが人気。その他には虫取り、木登り、かけっこ、みんなで綱引きなど。

⑤ブランコづくり



⑥ブランコ遊び



⑦綱引き



⑧ふりかえり





写真⑧ 「ふりかえり」の時間には参加者の感想などを共有した。

地元勝山育ちという方からは、昔はこの辺りは子どもだけで遊びに来た場所とのことで、城山中腹にあるグラウンドでキャンプをした体験もうかがうことができた。一方でこの場所に初めて来たという勝山地区在住の方もいて、子どもといっしょに遊ぶことが大人にも風景や空間の発見、新しい体験をもたらしたようである。

写真⑨ 頂上付近には水場とトイレがないため、参加者が四阿にブルーシートの目隠しをつくり、非常用簡易トイレで用を足せるようにした。結果としてトイレ利用はなかったが、非常時に役に立つ意識と経験であると感じた。

⑨仮設トイレ 四阿にブルーシートで目隠し



⑩手洗い、飲料用の水



写真⑪⑫ 山道の一部に木製階段の劣化、浸食がみられた。また、下りの際は浮き砂利が滑りやすいなど安全面の課題がある。

⑪木製階段の劣化



⑫山道の浸食



写真⑬ 今回のコース途中には道路の横断箇所があり、見通しが悪く横断には注意が必要な場所である。今回は大人が道路に出て安全を確認して横断した。停車して横断を待ってくれる車もあった。

⑬道路の横断



## ■参加者の感想

- ・ 初めての山登り楽しかった。
- ・ 勝山に住んでいるものの城山で遊んだことがなかったので、こんなに素敵な場所があったんだ！という発見があった。
- ・ 眠れる地域資源はたくさんある。今回の企画のように身近な山や川に入っていけるとすごくいいなあ、と感じた。
- ・ 「歴史のある城山で遊べるなんて！」と嬉しい気持ち
- ・ 山頂はとっても心地よい風を感じられた
- ・ 0歳7ヶ月を抱っこし、3歳を後ろに背負い、5歳息子と登った。「負荷をかけた心地よさ、登り切れた達成感」があった
- ・ 子ども達も周りの子ども同士が刺激しあい、いい影響もあってより楽しめていた気がする。
- ・ 自分たちが住む街で気軽に遊べる場所を見つけて遊ぶ機会を作りたかった。大昔、自分が遊び込んできたことを子ども達と共にやりたかった。
- ・ 身近な山や川に入るときに、大人が子どもを寛大に見守る機会と場があるとこんなに充実した時間が作れるんだなあ、と感じられた。
- ・ 途中、車道があったが、渡る際に停車して横断を待ってくれる姿もあった。こうした小さいことでも大人の眼差しが変わっていくことが地域の財産になるのではないかな。
- ・ 地域拡大家族のようにみんながいたからこそ、今回のような取り組みができたように思えた。
- ・ 4歳の息子にとっては、生まれて初めての山登り！のぼりきれるかなあ、と思ったけれど、同じく虫好きの子どもと仲良しになり、虫取りを楽しんでいるうちに山頂にたどり着いた感じ。
- ・ 息子に「お母さん、この先滑りやすいから気をつけて登ってね～」と声をかけてもらい、びっくりするやら嬉しいやら…。今日は小さな感動がたくさんあった。
- ・ とっても充実した時間になった。一方で、事前準備や受付等で運営側の労力がかかるので、この辺りは共に考え一緒に分担する人手が欲しいと思った。

大垣内作成の記録を編集

## ■公園部会参加者の感想

(大垣内 プレイワーカーの視点から)

▽「わくわくする想い」に寄り添う場づくり

山頂に「手作りブランコを作りたい！」という地域住民の願いに伴走。現地の木の枝を活かし、2台のブランコを離して設置することで、取り合いにならない工夫が自然に生まれた。自分の娘を含め、地域の子どもたちが遊べることを願って設営したお父さんの気持ちを尊重し、試行錯誤の時間を奪わないように意識した。「自ら考え、試し、工夫する面白さ」こそ、子どもも大人も持っている力。それを見守ることが、プレイワーカーとして大切にしたい視点。子どもと大人への関わり方は、毎回自分自身の振る舞いを「謙虚に省みること」が改めて重要なことを再認識した。

▽小さなしつらえが場を変える

話し合いの段階から懸念されていた「ブランコの奪い合い」をやわらげるため、カラフルな毛糸

---

や段ボールを1枚だけ持ち込み、拾った枝を組み合わせて遊べるようにした。ほんのささやかな工夫だったが、子どもも大人も「自分でつくった遊び」に素朴な喜びを見いだしていた。

#### ▽空間のデザイン（しつらえ）が生む遊びの多様性

下見の段階から「遊びのしつらえ」を意識し、空間全体の配置を考えた。結果として、ダイナミックに動ける動的な遊び場と、ゆったり過ごせる静的な空間がバランスよく共存。遊びの幅や過ごし方の選択肢が広がり、子どもも大人も思い思いに楽しめる時間となった。

#### （石井）

荷物運びや子どもたちの見守りなど、お手伝いのつもりで参加しましたが、登ってみると気持ちも身体も心地よく、私自身が癒されました。この心地よさの正体はなんだったのか、改めて考えてみると、年齢差50歳以上もある参加者それぞれに対等性があり、そのリスペクト故の程よい距離感（一緒に遊ぶ、おしゃべりする、見守る、同じ空間で別のこと好き好きにする、話さないけど一緒に歩く・・・）があったからかな、などとも思いました。この関係性を縮図として、親子のあり方、公園のあり方、まちのあり方、社会のあり方等々を考えさせられる体験でした。

#### （鈴木）

身近な屋外で、（山登り・外遊び）体験を共有することの奥深さを改めて実感しました。

（子どもの頃グラウンドでキャンプしたなど）集まった方の体験やエピソードがつながる楽しさ、今回の活動の外側にいる人（お弁当屋さん、地元の方）との関わり、活動中にすれ違った方々の反応も心地良かったです。

登山中によく目があう子がいました。ずっと不思議そうな顔でみつめられていた気がしていたのですが、つなひきで正面になり、自分が必死で綱を引いていたら、にっこり笑っていた顔が、とても印象的で、山頂での遊びの創意工夫はとても勉強になりました。

そして安全面とトレードオフかも知れませんが、山頂から自分のまちを眺望できたらより良い空間・体験につながるなと思いました。

#### （宮川）

現地での様子や振り返り時の感想から、「子どもに身近な場所で外遊びをさせたい」という大人の思いと「遊び場を探す」「遊び場をつくる」「そこで遊ぶ」というプロセスが次のような地域資源の再認識・発見、新鮮な空間体験、新たな人間関係・親子関係などを参加者にもたらしたと感じました。

- ・ 身近にある楽しさの発見と遊びを通じた自然や歴史的な空間との出会い
- ・ 猛暑下の樹林のひんやりした感じや、風の心地よさなど微気象による心地よさ
- ・ プランコづくりや毛糸遊び用の小枝拾いなど過程も含めた遊びの楽しさ
- ・ 山登りという体力を使う行動による達成感や「身体性」の実感
- ・ 親も知らなかった子どもの一面との出会いや短時間のうちに芽生えた子どもの成長の実感



- 
- ・ 集団で行動したことによる大人の安心感、子どもの自尊心からの頑張り
- そして、これまでは身近ではあっても直接かかわることのない存在としての「環境」であった山や水辺、空地が「遊び場」になり、そこに身を置くこと、遊ぶことによって、自分の外側にあった「環境」が、「風景、原風景」として真庭の人たちの人格の一部となり、真庭のいろいろな場所で環境や歴史の豊かさが一層の暮らしの豊かさとして溶け込んでいく可能性を感じました。

---

## 02-2 事例報告2 新町どんぐり公園

---

### ■「新町どんぐり公園」について

新町どんぐり公園は、乳幼児子育て中の保護者が「徒歩圏内で親子が外遊びできる場所が欲しい」という発意の元、話し合いを重ね、真庭市の子育て施策『こどもはぐみ応援プロジェクト』の公民協働によるポケットパーク整備事業により企業有地が整備された第一号の場所です。

参考 大垣内の記録及び <https://www.city.maniwa.lg.jp/soshiki/58/85221.html>

●位置：真庭市勝山 370

●面積：1363m<sup>2</sup>

●協働について：企業所有の駐車場であった土地を市と所有者との土地利用貸借契約、市道利用契約を締結の上、「ポケットパーク」として整備した。また、整備、維持管理、水道料金等の負担については市と自治会とで協定書を取り交わしている。

●施設：予算の制限もあり、対象地の一部はもともあったアスファルト舗装を残し、一部を真砂土舗装の広場としている。当初整備後追加でパーゴラが整備されたほか、市民が寄付金や助成金を得て築山、小遊具などを導入。アスファルト部分もボール遊びなどに利用されている。

●維持管理、活用：水やり、簡易な植栽管理、清掃などは市民が実施。普段の遊び場に使われるほか、ベンチづくりや菜園など様々な利用がなされている。

●課題（大垣内 「伴走支援者」の視点から）

- ・ 当公園では、暑熱対策のための四阿の設置と維持管理、築山用の土の購入等、施設の充実や維持のための費用負担について住民と市とのあいだで協議を重ねており、継続的な課題となっている。
- ・ 真庭市ポケットパーク事業は制度化がされたものの、「新町どんぐり公園」以降、新規の「ポケットパーク事業」の採択・実施はなく、住民主体の取り組みをどのようにどう支え広げていくのが課題となっている。

---

### ■現地視察 ■情報交換

#### 【レポート】

勝山地区らしい山の借景が効いており、地域の緑・自然の豊かさ、うるおいを実感できる立地であった（写真①）。この夏の猛暑の下でも市民が水やりや清掃などの手入れをしており、大切に使われていることが伝わってくる公園である。樹木などはまだ小ぶりであるが、今後の草木の育成、エイジングによって近景と遠景の「なじみ」が出ていくこと、市民の利用、関わ



りとともに風景が育っていくことを期待したい（写真②③）。

①公園全景



②真砂土舗装の広場



③植樹された樹木



④パーゴラとテーブル、ベンチ



写真④ 今年度追加整備されたパーゴラ。現状では貴重な日陰になる休憩スペースである。関連して自治会が寄付金を募り四阿の新設を検討しているが、維持管理をめぐって市と調整中とのこと。現地で四阿を設置するならどの場所がよいか相談を受け、使い方のイメージによって最適な場所は変わってくること、設置場所の候補をお伝えした。

写真④⑤ テーブルやベンチ等は可動式のものが多く可塑的に利用されていることがうかがえる。

写真⑥ 当初整備後に市民が助成金を得てつくられた築山。よく遊ばれることで写真⑥のように土が浸食され形がくずれており世話役の方から管理について相談を受けた。現状はたくさん子どもが遊んだ痕跡でむしろ好ましいものであり、これまで通りたくさん遊んでもらうことが望ましいことや、真砂土は人力で動かしやすく成型もしやすいので、みんなで遊びながら築山をつくりなおすのがこの場所らしいやり方ではないかとお伝えした。

⑤アスファルト舗装の広場と縁台



⑥築山



写真⑦ 市民が育てている菜園。普段の楽しみに加え、みんなでかかわっていく公園にしていく仕掛けとしてこのような「育てる」「食べる」プログラムがあるのは魅力的である。

写真⑧ 利用案内板は利用規制ではなく、みんなが楽しく気持ちよく使えるようにするための「おねがい」で、公園利用と規制とその伝達のあり方を考える上で参考になる事例である。

⑦菜園



⑧利用案内板



## ■公園部会参加者の感想

(石井)

新町どんぶり公園が私の家の近所にあったら、どのように使おうかな・・・と思いながら現地を見学しました。使い方、無限大でワクワクします。そして、このポケットパークを作るに至った地域の方々の熱意と行動力、土地所有者の地域愛と懐の深さ、このような事業に取り組む市の発想と勇気を尊敬しています。公民協働ならではの良さと同時に、公と民の手続き論やスピード感、言語を共有することの難しさもあるのかもしれませんが、その試行錯誤こそが、他の地域のポケットパークや遊び場づくりを展開していく上での大きなヒントになりそうだと思います。案内してくださり、ありがとうございました。

(鈴木)

楽しそうに公園を案内いただき、実際に休憩施設・築山の配置や舗装等の領域を体感して、遊びや活動などの様子を自分なりに想像しながら、身近に「心豊かな暮らし」の拠点ができ、継続することの素晴らしさを実感しました。またルールでも禁止でもない、おねがいのサインがとても印象的でした。

改めて「その環境に対して自分は何ができるか」を問うきっかけを頂き感謝です。

(宮川)

下記の点において参考になる事例だと感じました。

- ・ 計画、施工、管理運営までを行政が執り行い、市民はワークショップで意見表明をし、出来上がった公園の維持管理を一部負担したりするという形式から一歩も二歩も進めて市民が発案し、候補地を探し、行政と市民の双方がなんとか納得・譲歩できるまで協議を重ね、計画、整備、維持管理を実現していることは「新しい〈公園〉」のあり方を示している
- ・ 土地の取得を行わず、土地所有者の理解の下で遊び場としての整備と利用を可能にしている手法は、公園等遊び場へのニーズと遊休地はあるものの土地取得の財源が無



い地域、人口が減少傾向で空き地が目立ちはじめながらも公園等が不足している地域など、様々な地域において応用が可能

一方、試行錯誤中の取り組みにおいて、施策の内容、整備水準、維持管理負担、スケジュール感などの様々な事項について行政と市民の理解や意識をすり合わせ実現にこぎつけていくまでには大変な苦労があったと拝察します。また、公園や遊び場に関する共通のイメージや言語が共有されにくいことも双方の時間的、心理的負担の要因となったことと拝察します。今後こうした相互のイメージのすり合わせ、齟齬の解消につきましては、微力ながら私たちの専門性がお役に立てることもあるのではないかと思います。

また、次のような街中の遊び場を教えてくださいました（右写真）。芝生広場の一部が舗装された勝山地区にある私有地の庭ですが、「あそんでいいよ！」のメッセージがあります。そこを通ったのが猛暑の朝であったこともあり、子どもが遊んでいる姿は見られませんでした。なんともほのぼのとしたやさしさがあって、「おおらかで豊かだなあ」と感じました。



## 03 おわりに

### ■今後への期待

今回の〈城山であそぼ！〉プログラムに参加し、新町どんぐり公園を訪ねたことで「地域ぐるみで子どもの育ちを応援」している現場に直にふれることができました。そして、「あそびのわ」が広がっていくことで、地域が変わっていくことや遊び場に関する知見が得られることへの期待がふくらみました。それは次のような期待です。

- ・ かつての子ども（今の大人）が経験してきた外遊びやその場所に「危険だから、時代が違うから」と今の子どもたちを近づけないのではなく、見守りながら大人たちも一緒に遊ぶことで、子どもには身近な場所での遊び体験が原風景となり、大人も地域資源が持つ価値（自然が持つ遊びを引き出すアフオーダンス\*や微気象によって体感される環境のシステムなど）を体感することで、大人にも子どもにも風景や環境への愛着がはぐくまれていくこと
- ・ 遊びに出かける子どもが増えることで、地域の大人の子どもの意識、眼差しが変化すること（例えば子どもの「やってみたい」への寛容さ、よその子どもも見守る意識、車を運転するときに子どもや歩行者を気にかける気持ちなど）
- ・ プログラムの継続により公園ではない様々な場所で遊ぶための知恵（大人の見守り、リスク回避と安全のための対策と判断力、子ども自身の危機回避能力など）が蓄積されていくこと
- ・ 遊び場としての環境が豊かでありながら安全面の課題から子どもが外で遊ぶことが少ない地域のモデルとなるであろうこと
- ・ 今回の城山のような原っぱと樹木だけがある小スペースが遊び場として機能する実例が

---

増えていくことで、人手、予算不足の公園のあり方や持続性を考える上でのヒントが得られること

そしてもう一つ、真庭市の独創的な取り組みとその成果から、真庭市の豊かな環境の中で多くの人が豊かに育ち、「真庭ライフスタイル（多彩な真庭の豊かな生活）」\*\*が実現していくことへの期待です。また、真庭市に限らずそれぞれの地域の自然条件や社会条件、豊かさから導かれる地に足のついた工夫と実践によって地域の豊かさとその表象である風景が発見され体感されて愛着が生まれ、受け継がれていくことの可能性を感じました。

\*アフォーダンス：ここでは下記のような概念として使用しています。

- ・ 「アフォーダンス」は「環境が動物に与え、提供している意味や価値」、「環境の事実であり、かつ行動の事実」である。
- ・ 「アフォーダンス」は環境の持続的な性質とその変化であり、持続と変化の組み合わせのことである。
- ・ 「アフォーダンス」はそれと関わる動物の行為の性質に依存してあらわれたり消えたりしているわけではない。さまざまなアフォーダンスは、発見されることを環境の中で「待って」いる。
- ・ 「アフォーダンス」はだれでも利用できる資源として環境にある。

参考：岩波化学ライブラリー「新版 アフォーダンス」佐々木正人

\*\*真庭市は「真庭市総合計画」における 2040 年の目標として下記を掲げている。

「真庭ライフスタイル（多彩な真庭の豊かな生活）の実現 急激な人口減少のスピードを緩やかにし、たくさんの個性や文化、様々な「ひと」、資源にあふれた多彩な「まち」で、誰もが誇りと希望を持ち、共存し互いを尊重し合う生活があります。」

---

## ■謝辞

二年ぶり二度目の真庭行、短い期間でしたが今回も実り多き時間を過ごすことができました。真庭の皆様、最後になりましたが、このたびは私たちがプログラムに参加することを受け入れてくださりありがとうございました。これからの真庭市の未来に、そしてそこに私たちが少し関わらせていただけることにとってもワクワクしております。また、滞在中は大変お世話になりました。ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

JLAU 公園部会 2025.09.17

石井 裕子（一般財団法人 公園財団）大垣内弘美（真庭市教育委員会）、  
鈴木 良（株式会社協和コンサルタンツ）宮川 忠之（エスパス設計室合同会社）

---



## 風景の再発見

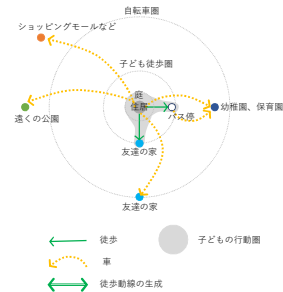
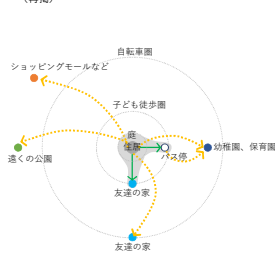
## 遊び場づくりがつなぐ人・自然・歴史

## 「まにわ あそびのわ」プロジェクト

20250804 真庭市 遊び場づくりに関する検討  
(JLAU室川)「遊び場」ができること「あそびのわ」が広がることから期待されること  
～「遊び」による〈真庭の豊かさ〉の発見と可視化と再認識～

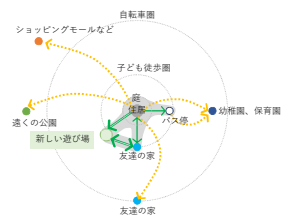
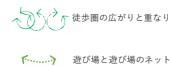
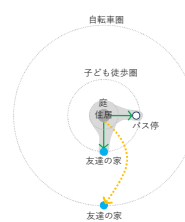
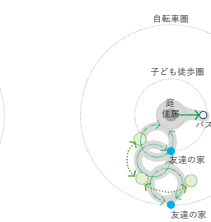
身近な遊び場がない状況の徒歩圏、移動手段のモデル

- ・ 小さな子どもは歩いて出かける場所がありません
- ・ 「やってみたい」ことを思いつく機会も生まれにくい
- ・ 大人も歩いて出かける機会が少ない

身近な遊び場がない状況の徒歩圏、移動のモデル  
(再掲)

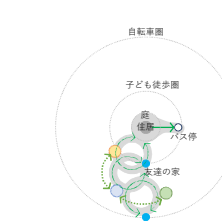
身近な遊び場があると

- ・ 大人も子どもも歩く機会が増える
- ・ 元々あった場所や道には別の意味を与えられ、それまでとは異なる風景としてとらえられるようになる

新しいお出かけ動線、行動圏の生成  
・ 自宅から遊び場  
・ 友達の家から遊び場、遊び場から友達の家  
・ 動線の関係が往復から回遊に変わる  
・ 保護者同士、子ども同士の出会いもうながされる身近な遊び場が増えると  
身近な遊び場がない状況の徒歩圏、移動のモデル  
(一部編集 再掲)お出かけ動線、徒歩行動圏のネットワーク化  
遊び場と遊び場のネットワーク化、遊びの「ハシゴ」の生成

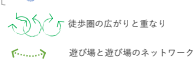
- ・ 〈お出かけ動線〉は増殖・多様になる：お出かけの選択肢が増える
- ・ 〈家〉を中心とした行動圏が広がりそれぞれの行動圏が重なっていく
- ・ 遊び場と遊び場とネットワーク化
- ・ 保護者も子どもも歩いて遊びに行くことで、歩行者と車、子どもと大人との関係も変化する（交通マナーの改善や見守りなど）
- ・ 歩き慣れることで徒歩圏が拡大する

〈遊び〉によって発見（再認識）される風景（＝真庭の環境特性・資源）



- ・ 〈遊び場確保をする目〉に〈遊び場としての魅力・そこで遊びたい魅力〉として映ることで地域の魅力的な場所と環境特性とその風景が発見されていく
- ・ 豊かな環境特性によって遊び場は多様になる

- ・ 豊かな環境特性の発見  
多様な遊び場の実現
- ・ 街の遊び場 広場、路地、境内、学校、図書館・・・
- ・ ヤマ、杜の遊び場
- ・ 川原、水辺の遊び場



遊び場と遊び場のネットワーク

## 「まにわ あそびのわ」プロジェクト

「遊び場」ができること「あそびのわ」が広がることから期待されること

～「遊び」による〈真庭の豊かさ〉の発見・可視化・再認識・継承～

遊び場の発見と遊びの伝播によって〈まにわ あそびのわ〉が空間的にも人のつながりとしても広がっていく。

遊び場として発見される場所が持つ〈遊び場としての魅力〉とは、緑、地形、水、生き物、歴史、空地、人、景観、等であり、それらの環境特性（見過ごされがちな真庭の潜在的な豊かさともいえる）が遊び場探しを通じて市民に再発見されていくことになる。そして〈遊び〉を通じて、様々な環境特性が新しくも豊かさのある（風景）として可視化され再認識されていく。

遊び場の風景として可視化され体験された環境特性は孤立した〈点〉ではなく何らかの関係性：つながりがある風景として認識されるようになる。その関係性、つながりは風景を成立させる環境のシステム（地形、水循環、緑生、生物系とそれらに繋がる生態）の歴史であり、この環境システムとその風景を大切にすることの意識が育まれ受け継がれていくことを期待する。

なお、この実現には価値の「再発見」「再認識」という市民の変化だけではなく、インフラ・環境整備が必要であるため、市民と行政とが〈価値〉を共有することが前提となる。

豊かな環境特性の発見  
多様な遊び場の実現

- ・ 街の遊び場 広場、路地、境内、学校、図書館・・・
- ・ ヤマ、杜の遊び場
- ・ 川原、水辺の遊び場



遊び場と遊び場のネットワーク

- 参考
- ・ 都市のグリーンマトリックス 田畑貞寿
- ・ イラストによる都市計画の進め方 デイター・プリンツ（小橋一 訳）
- ・ 遊びと学びの場づくり応援サイト VIVAまにわ <https://viva.maniwa.city>